

1. 基本的な調査方法

- 定点観察法を基本とし、適宜営巣木踏査を行い、営巣地の絞込みを行う。
- 営巣地を見つけた段階で、繁殖状況を把握し、行動圏調査を実施。

2. 調査地点

別図-1～2参照

猛禽類現地調査計画

3. 調査対象種

法令(文化財保護法、種の保存法)の対象種、環境省レッドリスト、レッドデータブックあいち(2009)、レッドデータブックなごや(2004、2010)に記載されたタカ科、ハヤブサ科の鳥類を調査対象種とする。

| 種名 | 天然記念物 | 種の保存法 | 愛知県指定 希少動植物種 | 環境省RL | 愛知県RDB | 名古屋市RDB |
|----------|-------|-------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| (改定年) | | | | (2006) | (2009) | (2004、2010) |
| ミサゴ | | | | 準絶滅危惧(NT) | 準絶滅危惧(NT) | 準絶滅危惧(NT) |
| ハチクマ | | | | 準絶滅危惧(NT) | 絶滅危惧II類(VU) | 絶滅危惧II類(VU) |
| オジロワシ | ○ | ○ | | 絶滅危惧IB類(EN) | | |
| オオワシ | ○ | ○ | | 絶滅危惧II類(VU) | | |
| オオタカ | | ○ | | 準絶滅危惧(NT) | 準絶滅危惧(NT) | 準絶滅危惧(NT) |
| ツミ | | | | | 準絶滅危惧(NT) | 準絶滅危惧(NT) |
| ハイタカ | | | | 準絶滅危惧(NT) | | 準絶滅危惧(NT) |
| サシバ | | | | 絶滅危惧II類(VU) | 絶滅危惧II類(VU) | |
| クマタカ | | ○ | | 絶滅危惧IB類(EN) | 絶滅危惧IB類(EN) | |
| イヌワシ | ○ | ○ | | 絶滅危惧IB類(EN) | | |
| チュウヒ | | | | 絶滅危惧IB類(EN) | 絶滅危惧IB類(EN) | 絶滅危惧II類(VU) |
| ハイイロチュウヒ | | | | | 準絶滅危惧(NT) | |
| ハヤブサ | | ○ | | 絶滅危惧II類(VU) | 絶滅危惧IB類(EN) | 絶滅危惧II類(VU) |

注 対象種の抽出根拠

猛禽類調査現地調査計画に示した調査対象種は、法令(文化財保護法、種の保存法)の対象種、「レッドデータブックあいち2009」、「レッドデータブックなごや2004」及び「レッドデータブックなごや2010-2004補遺-」から愛知県全域について抽出した。

猛禽類現地調査計画

4. 調査時期・回数

- ◎猛禽類の生息が想定される箇所〔A01、A02(※)エリア〕
- ・2011年12月－12月1回(予備調査(※)としての位置付け)
 - ・2012年1月～8月(第1営巣期)－毎月1回(合計8回)
 - ・2012年9月～12月(非繁殖期)－期間中1回
 - ・2013年1月～8月(第2営巣期)－毎月1回(合計8回)

※愛知県は予備調査を実施していないため、2011年12月に予備調査を実施する(専門家意見)。
※A02エリアについては、2013年3月迄調査を実施し、営巣の可能性が低いと判断できる場合は、猛禽類調査としての調査は中止し、一般鳥類調査のなかで補完する。

5. 調査日数

- ・1回あたり3日連続を基本〔A01エリア〕
- ・1回あたり1日を基本〔A02エリア〕

6. 調査時間

- 9時～16時頃を中心としながら、対象種の生活サイクル等を考慮のうえ、必要に応じて早朝の時間帯の調査を組み合わせることとする。